

# 令和4年度 第1回桑名市地域公共交通会議 議事要旨

日時：令和4年9月16日（金） 14：00 ～ 16：00

開催場所：桑名市役所 3階第2会議室

出席者：委員 17名（敬称略）

岩崎 恭典（四日市大学学長）

梶 充夫（桑名市自治会連合会会長）

水谷 人司（多度地区自治会連合会会長）

安井 清茂（長島地区自治会連合会会長（桑名市自治会連合会副会長））

加藤 幸子（民生委員・児童委員）

深津 和男（市民又は利用者の代表（桑名地区））

江上 元一（市民又は利用者の代表（多度地区））

小黒 佳剛（三重交通株式会社 桑名営業所長）

中島 嘉浩（三重県タクシー協会 北勢支部長）

雨澤 隆生（三岐鉄道株式会社 取締役常務執行役員 鉄道部長）

出井 洋司（養老鉄道株式会社 代表取締役常務 鉄道営業部長）

前葉 光司（中部運輸局 三重運輸支局 首席運輸企画専門官）

堀畑 守民（桑名警察署 交通第一課長）

松島 昇平（三重県 地域連携部 交通政策課 主事）（代理出席）

中野 公慈（三重県 桑名建設事務所 総務・管理室 管理課長）

位田 真知子（桑名市 保健福祉部 介護高齢課長）

若松 覚（地域コミュニティ局 地域コミュニティ課長）

報道者：1名

傍聴者：1名

## 1. 委員紹介（交代）

## 2. 「活発で良い議論ができる会議のために。」パンフレットの説明

・地域にあったより良い公共交通の未来に向けて、活発な議論ができる会議にするために、地域公共交通会議の役割や仕組みについて、パンフレットを用いて説明。（前葉委員）

## 3. 報告事項【資料1】

①八風バス路線（梅戸線）の一部区間縮小について（八風バス）

②昨年度コミュニティバス実績報告について

③海津市デマンド交通バスの多度町乗り入れについて

④令和3年度自動運転実証実験について

⑤令和3年度AI活用型オンデマンドバス実証実験について

【質疑応答及び要旨】

- ・コミュニティバス利用者数の令和2年度、3年度の比較で、多度ルートのみ減少している理由はどのようなものか。(江上委員)  
⇒コミュニティバス利用者数はコロナの影響で令和2年度には対前年比約3割減少した。生活様式や移動意識の変化により、利用者数はなかなか回復しない。コロナ禍前の利用状況に戻ることは難しいと考えている。  
コミュニティバスでは利用者の属性が把握できず、どういう利用者がどのような理由で減少してしまったのか、分析が難しいのが現状である。一方で、AI活用型オンデマンドバスだと、データ管理を行うため、どの年代が、どの目的地へ、どの時間に利用するのか、データ分析できることから利便性の向上を図ることができる移動サービスと考えている。(室長)
- ・今年度も多度ルートは、利用者数が回復していないのか。多度地区在住のため、地域からコミュニティバスを改善してほしい、「神馬の湯」に行ってほしい等色々な声を聞いているが、結局は、今はコミュニティバスを利用しないと言われる。市としても現地確認やヒアリングを行っていただきたい。(江上委員)  
⇒多度ルートにおいては、令和4年度7月までの利用者数を前年同期と比較すると利用者数は増加している。(室長補佐)
- ・自動運転レベル2で実証実験を実施しているが、どこを目指しているのか。(江上委員)  
⇒レベル2は、直進・右左折等システムで行っているが、基本的には、運転手が乗車し、周囲や運行の状況を目で見ている状態。レベル3以上は、システムが判断する。現状、全国各地でレベル2までの自動運転の実証実験は行われているが、レベル3は一部地域での実施となっている。法整備の進捗にもよるが、国も自動運転を推奨しており、完全無人化であるレベル4を目標にしたいが、現段階では、レベル3に向けて進めていきたい。(室長)
- ・昨年度のAI活用型オンデマンドバス実証運行時に、運賃無償にした理由を再確認したい。(江上委員)  
⇒昨年度は、AI活用型オンデマンドバスの初めての取り組みであり、また期間も1カ月と短期間であったことから、まずは新しい移動サービスを体感していただくことを優先した。期間中に約1,000人にご利用いただき、成果があったと考えている。(室長)

・ AI 活用型オンデマンドバスとコミュニティバスが、期間中に同時運行していたが、コミュニティバスの利用者数に変動はあったか。(江上委員)

⇒実証実験前のコミュニティバス西部南ルートの利用者数は、1日あたり50人程度だったが、実証実験の開始後も利用者数は変わらなかったことから、新たな移動需要を喚起したのではないかと考えている。(室長)

・ AI 活用型オンデマンドバスの電話予約での利用の流れを再確認したい。(江上委員)

⇒専用電話番号に電話をするとオペレーターが対応する。初回利用だと会員登録が必要で、氏名、年齢等を登録していただき、次に利用したい日時と乗降拠点を伝えていただく。オペレーターからバスが配車できる時間や乗降拠点を教えてもらえるので、利用者はその予約の時間に乗降拠点でお待ちいただくと、バスが迎えに来る。場合によっては、乗合が生じることもある。アプリで予約するとバスの位置が表示されるので、利便性や安心感が増す。利用方法にあたっては、運行エリアの地域に向いて説明をさせていただいた。(室長)

・ AI 活用型オンデマンドバスの実証実験時に、コミュニティバスの利用者に影響はなかったとのことだが、既存路線バスやタクシーへの影響はどうであったか。(前葉委員)

⇒このエリアを運行する八風バスでは、コミュニティバス同様大きな変動はなかった。(小黒委員)

⇒タクシーは、このエリアの蓮花寺、希望ヶ丘、イオンモールの辺りは需要が多い。利用者の増減については、日報を一つずつ確認しなければならないので大変労力がかかるため詳細は不明であるが、少なくとも影響はあると考える。(中島委員)

・ 昨年度の AI 活用型オンデマンドバスの試乗体験をした。体験した印象では、バスとタクシーの中間の移動サービスというよりは、タクシーに近いサービスであると感じた。アプリが使いこなせなくとも電話で予約できることからタクシーに似ている。今後は、市とタクシー会社の関係性が重要である。最近の高齢者は、スマートフォンを使いこなしているので、このようなアプリも将来有望な手段となると思う。AI 活用型オンデマンドバスは無償で運行する必要はない。地域にあるどの移動手段を利用するかは、利用者が決めることであって、運賃を取りながら利用者の反応を把握し、改善しながら事業を進めてほしい。市は実装に向け予算を確保し、運行地域を拡げていってほしい。(梶委員)

・ 自動運転に試乗した印象は、「夢」。VR 専用ゴーグルを装着すると、車に乗っているというより船に乗って川を渡っている感じであった。桑名市は、観光・歴史・文化の街であるので、桑名市の将来の大きな力となると思う。将来の夢として、是非進めていってほしい

事業であり、応援している。(梶委員)

#### 4. 協議事項【資料2】

##### ①令和4年度AI活用型オンデマンドバス実証実験について → 承認

###### 【質疑応答及び要旨】

・AI活用型オンデマンドバス事業のタクシー事業者とのすみわけはどのように考えているか。オンデマンドバスは乗降拠点に縛られるものの、タクシーより安価で利用できることから、タクシー需要は減少すると十分考えられる。タクシー需要が減少し続けると、タクシー会社の撤退となりうることも想定される。そうなった場合、この地域の公共交通に与える影響は計り知れないものとなるので、エリアや事業者の選定について、慎重に進めていってほしい。

車両の保有はどこか。(前葉委員)

⇒エリア選定については、比較的人口が多く、高齢化率が高い地域で、病院や商業施設が点在していることから選定した。また、バス、タクシー、鉄道と既存公共交通を基軸にしながら、新たな移動手段を確保していきたいと考えている。

コミュニティバスは、交通空白地の解消を目指しているが、現在、増便や長時間乗車、路線の延伸等多くの改善要望をいただいております。コミュニティバス運営を抜本的に改善する必要があると考えている。令和元年度末に大きなルート改正を実施し、多度・長島地区から桑名駅前に乗り入れるルートを創設することで、頂いたご要望には応えられたが、それまで利用されていた利用者からは、多度・長島への延伸によって不満が多く出てしまった。乗車時間や到着時間等は、ルートの見直しの度に不満が出てしまう。時間やルートに縛られず利便性の良い地域内の移動手段を検討していきたい。(室長)

運賃設定について、桑名市と同様「のるーと」のシステムを導入している自治体や、その他のデマンド交通を導入する県内事例を参考にした。また、コミュニティバスの運賃や既存公共交通等総合的に勘案し、大人300円を設定し、利用者の受容性を検証したい。デマンド交通は全国的にも拡がりつつあるが、当然タクシー会社、バス会社と協議を重ね、委員皆様のご意見をいただきながら慎重に進めていきたい。

車両の保有は、三重交通(株)となる。(室長)

⇒この事業を進めていくには、タクシー会社への影響はあるものの、タクシー会社、バス会社と影響や地域交通の在り方を話し合っていくことで解決できるはずである。市内で運行エリアが拡がり、運行台数が増えていくと考えられるので、タクシー会社にも委託し、移動手段を維持確保してほしい。(梶委員)

⇒昨年度の実証実験でイオンモール桑名への需要が一番多かったという結果だが、ここに

はタクシー乗り場もあり待機している。コミュニティバスのように便数が少なかったり、目的地まで長時間乗車にならない、安価なオンデマンドバスが乗り入れると当然タクシー会社は減収を被ると認識している。全体としては反対ではあるものの、今年度は3カ月の長期の実証運行ということで、有償での実証運行で検証したい考えも理解はする。ただ、これが本格運行となると賛成とはいかない。病院や商業施設等タクシー需要のあるエリアは除いてエリア設定を検討してもらいたい。また、最初エリアから除いたとしても、オンデマンドバスが浸透するにつれ、利用者は桑名駅や桑名駅前の病院、商業施設等より遠くの目的地に乗り入れてほしいと声が出てきて、タクシー以外の公共交通事業者へも影響が出る。

今回は三重交通(株)が運行事業者であるが、本格運行の際は8人定員の車両を検討していただくとタクシー事業者でも運行可能となる。本格運行時は、道路運送法第4条によると思われるが、バリアフリー対応も必要になってくる。定員やバリアフリーに対応可能な車両は、既にタクシー会社は保有している。

道路運送法第4条での競争入札となると、タクシーは運賃時間制であり、バスに比べハードルが高くなるので、運輸局には柔軟に対応できるようお願いをしたい。

既にデマンド交通を運行している菰野町は、タクシー会社が1社おり、自社の運行エリアで行っている。亀山市は、2社おり、両社とも運行できる体制をとっている。どちらもタクシー会社に関わっているが、桑名市ではタクシー会社に関わりがないのが問題と捉えている。(中島委員)

⇒昨年度、今年度とコミュニティバスの代替性を検証ということで、オンデマンドバスの運行エリアのコミュニティバスを運行委託している三重交通(株)に委託しているが、本格運行を検討するにあたり、委託契約の手法、運賃や運行エリアの設定等含めて引き続いて慎重に議論していきたいと考えている。(室長)

・今回の実証実験時に車椅子対応は必要ではないか。(江上委員)

⇒車両手配の際に新車を検討したが、社会情勢から納車が見通せず、一方でレンタカーは有償運行による認可申請が必要なことから難しく、中古車両を想定している。今回は実証運行ということで車椅子対応可能な車両改造も難しいが、本格運行の際は車椅子の対応をしていきたい。(室長)

・実証実験には、どのくらいの費用がかかるのか。(江上委員)

⇒昨年度の実証実験では、システム費や運行費等含めて総額1700万円程度。(室長)

#### 4. 協議事項【資料2】

②桑名市コミュニティバスの路線変更に向けて → 承認

### 【質疑応答及び要旨】

・廃止路線・新規路線とも道路管理者や警察署と協議済みか。運賃、使用車両に変更はないか。(前葉委員)

⇒路線について協議済みであり、運賃、使用車両に変更はない。(室長)

・市のコミュニティバス委託料から、タクシー会社に補助するという検討はしたことがあるか。(江上委員)

⇒現在のコミュニティバスを維持するために1億4,000万円もの経費が必要である。今後は、デマンド交通について、タクシー会社含め委託契約の手法を検討、議論していきたい。(室長)

⇒タクシーチケットの配布等、5年後、10年後にも公共交通が残るような施策の検討が必要である。(前葉委員)

## 5. その他

### 【質疑応答及び要旨】

#### ➤交通事業者の近況

・三重交通(株)は、外国人旅行客の減少、リモートワークの進展などにより打撃が大きい。コロナ前と比べて、現在でも35%程度の減少が続いている。加えて、燃料代の高騰で経営は非常に厳しい。(小黒委員)

・タクシーは、売上は令和元年度比で最大半減した。最近では8割ほどまで戻ったが、第7派の影響でまた減っている。観光や夜間の利用などが少なくなっている。コロナ禍で離職者も出て、運転手の高齢化や燃料代の高騰等経営状況は厳しい状況が続いている。(中島委員)

・北勢線は、コロナ禍前の比較で8割程度に減少し、最近では9割程度の減少。三岐線に比べ北勢線の回復は良好。ただ、貨物を持たない路線なので依然として厳しい。(雨澤委員)

・養老鉄道は、今年度の収入についてコロナ前と比較して約17%減少であるが、回復傾向。行動制限が緩和され、イベントを開催している。鉄道まつりも好評であった。最近の自然災害の被害が大きく、大雨により運行速度の減速や運休の回数が増加している。また、雷被害により踏切が故障し、遮断機が下りたままになり周辺住民に迷惑をかけているが、古い機材を守りながら早い復旧に努めている。(出井委員)

#### ➤市運転免許証自主返納者支援

・免許証自主返納者支援について警察の評価は。(岩崎委員)

⇒自主返納者数は、年々減ってきてはいるものの問題視はしていない。高齢ドライバーの事

故は全体の2割程度。比率は横ばいで減っているといわけではない。この事業は6月に始まったばかりなので、今後見守っていきたい。(堀畑委員)

➤お助けタクシー助成事業

- ・城南地区まちづくり協議会でのアンケートを通して、買い物や通院等の外出が課題と把握している。路線バスやコミュニティバスが運行してはいるものの、利用がしにくく、デマンド交通の導入を地域として望んでいるところである。今年度 AI 活用型オンデマンドバスの運行エリアが一部拡大するものの、他地域への拡がりには時間がかかると認識している。地域の移動手段が確保されるまで、まちづくり協議会で確保しようと、この制度を創設。9月2日から申請を受け付け、今日時点28名の申請があった。(深津委員)

➤北勢線サンタ電車

- ・コロナ禍で中止となっていたが、12月17日にサンタ電車を運行予定。公共交通を利用してサンタ電車に乗車していただきたい。コミュニティバスとも連携を検討してほしい。(岩崎委員)